



FREEDOM ONLINE

JAPAN COUNTRY REPORT

若年女性へのジェンダーを理由にした

オンライン・ハラスメントに関する調査結果

日本の調査報告書

2020年10月

目次

1. 日本における調査概要	1
2. 若年女性の SNS の利用状況	1
3. ジェンダーに基づくオンライン・ハラスメントの経験	3
3.1 オンライン・ハラスメントに遭った SNS	3
3.2 オンライン・ハラスメント経験の頻度	4
3.3 オンライン・ハラスメントの認識	5
3.4 若年女性が体験するオンライン・ハラスメントの種類	6
4. 若年女性に対するオンライン・ハラスメントの加害者	9
5. オンライン・ハラスメントがもたらす影響	10
5.1 女の子と若い女性のオンライン・ハラスメントへの対処方法	10
6. ジェンダーに基づくストリート・ハラスメントとオンライン・ハラスメント	11
7. 誰がポジティブな変化を起こすべきか？	12

1. 日本における調査概要

同調査は、プラン・インターナショナルが毎年発行する「世界ガールズ・リポート」の一環として行われたものである。同リポートでは毎年テーマを設定して世界各地の若年女性の取り巻く現状を調査し評価するものだが、2020 年はテーマを「ジェンダーに基づくオンライン・ハラスメント」としている。世界 31 カ国で 1 万 4000 人を対象に「ジェンダーに基づくオンライン・ハラス

メント」について実施された大規模なインターネット調査では、ソーシャルメディア（以下、SNS）上における 15～24 歳の女の子と若い女性（以下、若年女性）が置かれた状況を調査するものとなった。

日本では、合計 501 人がアンケートに回答した。

表 1 回答者の年齢

年齢	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
人	46	56	33	41	43	53	70	50	53	56	0

回答者のうち 7%が、交差性*の特徴を持っていた。「LGBTIQ+である」と自認している者は 4%、「少数民族出身」は 1%、「日常生活で聴覚、視覚、移動または会話などに困難を抱えており、障がいがある」と回答した者は 3%だった。

* 交差性 (intersectionality) : 人種、エスニシティ、ネイション、ジェンダー、階級、セクシュアリティなど、さまざまな差別の軸が組み合わさり、相互に作用することで独特の抑圧が生じている状況をさす。

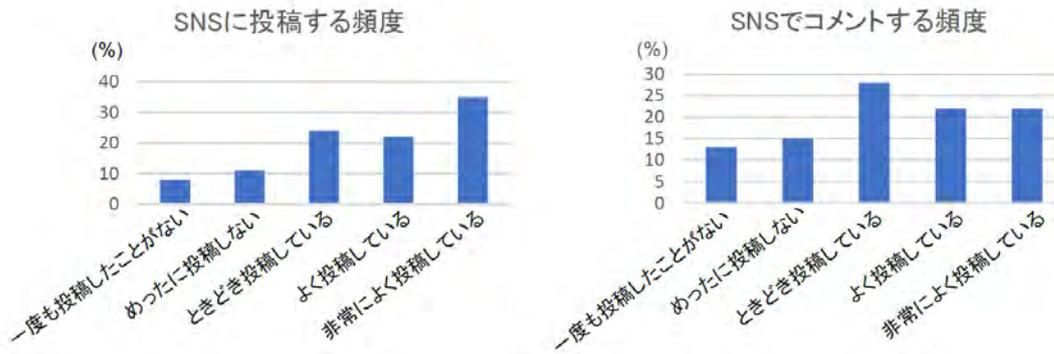
参考文献: 徐阿貴「Intersectionality (交差性) の概念をひもとく」『国際人権ひろば』No.137(2018 年 01 月発行号)。

2. 若年女性の SNS の利用状況

SNS の利用状況については、回答者の 93% が利用しており、「『頻繁に』・『とても頻繁に』 SNS に投稿する」と回答したのはそのうち 57% であった。また、44%が「『頻繁に』・『とても頻繁に』ほかの利用者の SNS の投稿にコメントをする」と回答している。

調査では、SNS の利用の全体のレベルを、投稿の頻度とコメントの頻度の両方を考慮して計算したが、日本では、若年女性の SNS の利用は、高レベルが 47%、中レベルが 26%、低レベルが 28%だった。SNS の利用レベルを年齢別に見ると、18 歳未満の回答者は 18 歳以上の回答者よりもが低いことがわかった。

表 2 SNS への投稿とコメントの頻度



利用している SNS

日本の若年女性が利用している SNS は、LINE (64%)、Twitter (50%) であった。LINE (64%) がもっとも多く、続いて Instagram

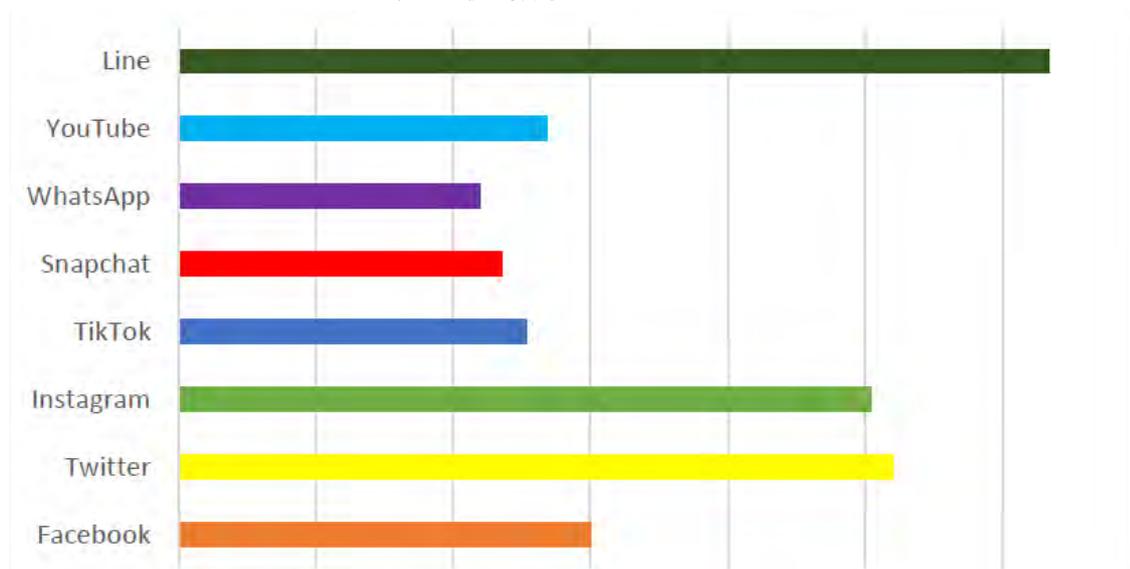
表 3 若年女性で利用している SNS

Facebook	Twitter	Instagram	TikTok	Snapchat	WhatsApp	YouTube	Line
12%	50%	51%	8%	6%	3%	10%	64%

アンケート調査では、各メディアの利用状況について、「一度も投稿したことがない」「めったに投稿しない」「ときどき投稿している」「よく投稿している」「非常によく投稿している」の 5 択で質

問をしたところ、LINE、Instagram、Twitter は、回答者における利用率、頻度は共にもっとも高かった。

表 4 最も頻繁に利用されている SNS



3. ジェンダーに基づくオンライン・ハラスメントの経験

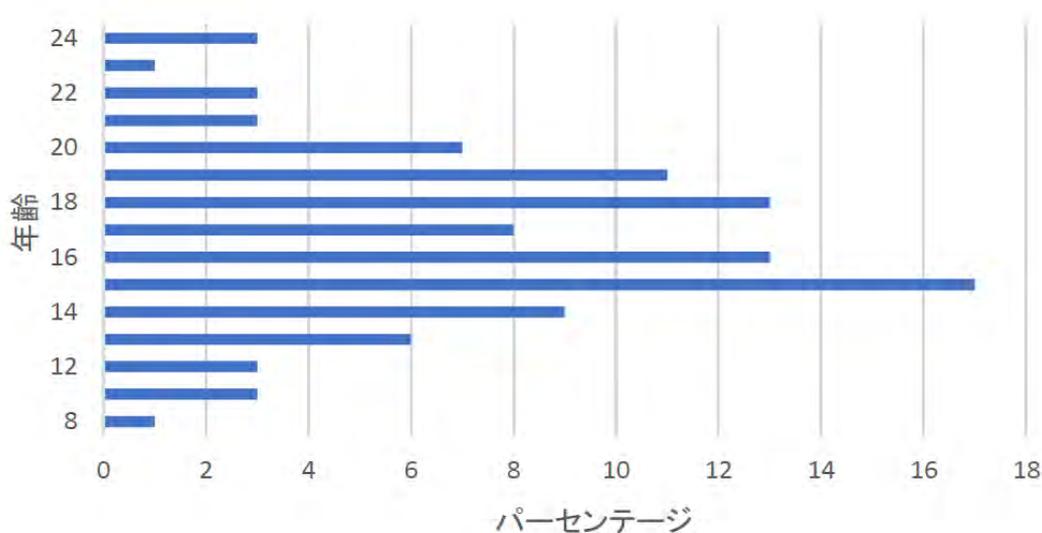
調査では 25%が「SNS で何らかの形でオンライン・ハラスメントを経験したことがある」と回答した。この結果は、アンケート調査を行った 31 カ国の平均およびアジア太平洋地域の国々の平均がともに 58%で、日本はその平均を 33%ポイント下回っていることになる。

彼女たち自身が、ジェンダーに基づいたオンライン・ハラスメントの被害を経験していなくても、「ほかの人が SNS 上でオンライン・ハラスメントを経験していることを見聞きしている」と回答した者は、39%に上った。

オンライン・ハラスメントの被害に初めて遭う年齢

低年齢(8~14 歳)で SNS 上でのオンライン・ハラスメントの被害を経験する女の子が少ないのに対して、初めて被害に遭った年齢は 15 歳から 19 歳の間に集中していた。

表 5 初めてオンライン・ハラスメントに遭った年齢



3.1 オンライン・ハラスメントに遭った SNS

オンライン・ハラスメントの被害を受けた若年女性の 16%が「Twitter」で経験しており、「Instagram」で経験した者は 7%だった。

表 6 オンライン・ハラスメントの被害を受けた SNS

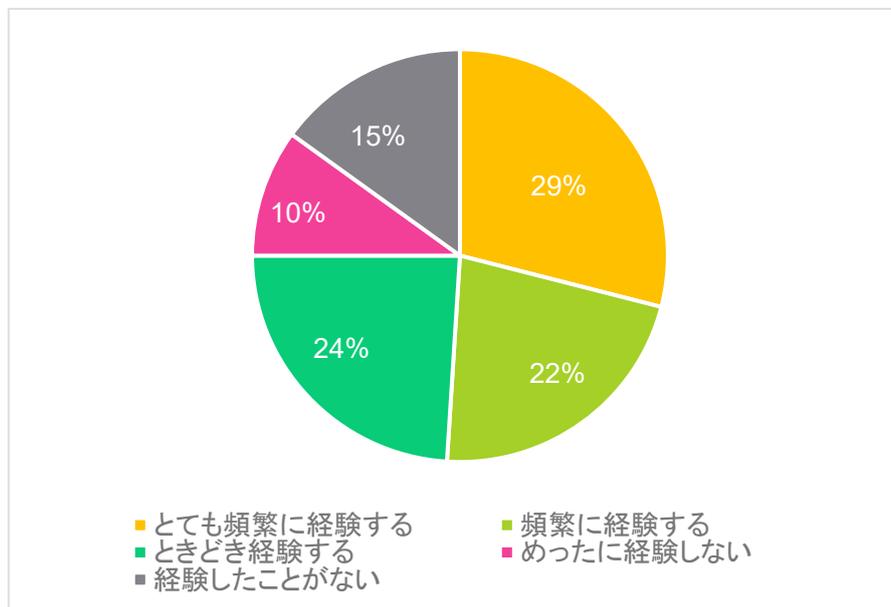
SNS	ハラスメントを受けた割合
Facebook	2%
Twitter	16%
Instagram	7%
TikTok	2%
Snapchat	1%
WhatsApp	1%
Line	6%
YouTube	6%
その他	2%

3.2 オンライン・ハラスメント経験の頻度

『自分自身』・『知り合いの若年女性』が、オンライン・ハラスメントの被害を『とても頻繁に』・『頻繁に』経験したことがある」と回答したのは、回答者全体の 51%に上る(「頻繁に経験する」

(22%)、「とても頻繁に経験する」(29%)。その他の回答は「ときどき経験する」(24%)、「めったに経験しない」(10%)、「経験したことがない」(15%)だった。

表 7 オンライン・ハラスメント経験の頻度



3.3 オンライン・ハラスメントの認識

31 カ国で行われた調査から、オンライン・ハラスメントの概念についてそれぞれ異なる理解がされていること、そして回答者によってはまったく理解されていないことが明らかになった。これは、若年女性が「SNS でハラスメントを受けた」という認識に影響を与えている可能性がある。

今回の調査で、「SNS 上でのオンライン・ハラスメントの問題について、どの程度聞いたことがありますか」という質問に対し、「一度もない」(40%)、「少しだけある」(24%)、「ときどきある」(26%)、「よくある」(11%)と回答した。このオンライン・ハラスメントの認知や理解は、被害に遭ったときに対応できるかにも影響を与えている。

調査では、「オンライン・ハラスメントについて聞いたことがある」と答えた回答者数は、オンライン・ハラスメントの被害報告数と比例していることが分かった。

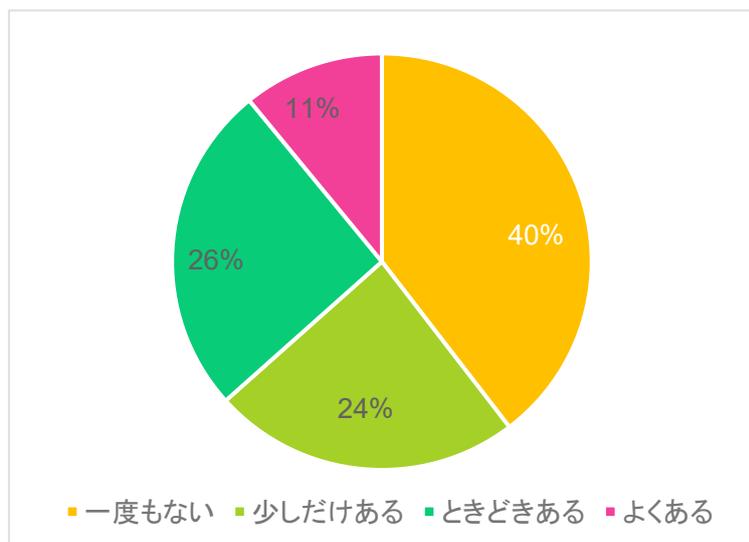
オンライン・ハラスメントについて「まったく聞いたことがない」と回答した者の 94%は、「オンライン・ハラスメントを受けたことがない」と回答し

ている。オンライン・ハラスメントについて「少しだけ聞いたことがある」と回答した者の 68%が、「オンライン・ハラスメントの被害を受けたことがない」と回答し、オンライン・ハラスメントについて「ときどき聞いたことがある」と回答した者の 59%が「オンライン・ハラスメントの被害を受けたことがない」と答え、オンライン・ハラスメントについて「よく聞いたことがある」と回答した者の 58%が「オンライン・ハラスメントの被害を受けたことがない」と答えた。

この結果は、若年女性がオンライン・ハラスメントの被害にあったときに声を上げるためには、オンライン・ハラスメントとは何か、理解することが重要であることを示している。

今回の調査に参加したアジア太平洋地域の国々でオンライン・ハラスメントについて「まったく聞いたことがない」と答えた若年女性が 11%だったのに対し、日本では 15%に上った。これは、アジア太平洋地域全体に比べて、日本の若年女性のオンライン・ハラスメントへの理解が不十分であることを示している。

表 8 オンライン・ハラスメントを聞いたことのある頻度



注: 構成比は小数点以下を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100 とはならない。

表 9 オンライン・ハラスメントの認知と被害を受けたという認識の関係

オンライン・ハラスメントに関する情報	「オンライン・ハラスメントをまったく受けたことがない」と回答した割合
「まったく聞いたことがない」と回答	94%
「少しだけ聞いたことがある」と回答	68%
「ときどき聞いたことがある」と回答	59%
「よく聞いたことがある」と回答	58%

3.4 若年女性が体験するオンライン・ハラスメントの種類

若年女性に対してオンライン・ハラスメントが発生しているのであれば、オンライン・ハラスメントの種類分析は、ソーシャルメディア利用に

おける課題を理解するためにも重要である。ここで論じるハラスメントの種類は、以下。

- 「『殴るぞ』『殺すぞ』などの、身体的暴力をふるうという脅迫」
- 「『レイプするぞ』などの、性暴力をふるうという脅迫」
- 「セクシュアル・ハラスメント(以下、セクハラ)」「人種差別的な発言」
- 「LGBTIQ+に対する否定的な発言」
- 「罵り言葉および侮辱的な言葉」
- 「意図的に恥をかかせること」
- 「体型批判を含む容姿や交差性の特徴に対する攻撃」
- 「ストーカー行為」

調査ではどの種類のオンライン・ハラスメントをSNSで「ときどき」「頻繁に」「とても頻繁に」体験したか質問した。もっとも多くの日本の若年女性が直面したのは、「罵り言葉および侮辱的な言葉」(65%)、「セクハラ」(61%)、「体型批判」(59%)、「意図的に恥をかかせること」(59%)だった。

「複数の種類のハラスメント被害を経験した」と回答したのは76%であり、「1種類しか経験したことがない」と答えた者は24%、今回設定していた9種類すべてのハラスメントを経験していた者は36%に上る。

表 10 若年女性が受けるオンライン・ハラスメントの種類

	オンライン・ハラスメントを受けたまたは自分の周囲で受けたことがある種類(ときどきおきている・よくおきている・非常によくおきている の回答)
「レイプするぞ」などの、性暴力をふるうという脅迫	42%
セクハラ	61%
「殴るぞ」「殺すぞ」などの、身体的暴力をふるうという脅迫	51%
LGBTIQ+に対する否定的な発言	52%
人種差別的な発言	58%
体型批判	59%
意図的に恥をかかせること	59%
ストーカー行為	53%
罵り言葉および侮辱的な言葉	65%

若年女性がオンライン・ハラスメントを受ける頻度

同節では、より詳細に、若年女性が SNS 上でオンライン・ハラスメントの被害に遭っているのか、その頻度について考察する。

アンケート回答者の41%は、『自分自身』・『知り合いの若年女性』が、『頻繁に』・『とても頻繁』

に、暴力的な言葉や侮辱的な言葉を経験している」と回答した。36%は、『自分自身』・『知り合いの若年女性』が、『頻繁に』・『とても頻繁に』オンライン上でセクハラを経験している」と回答した。

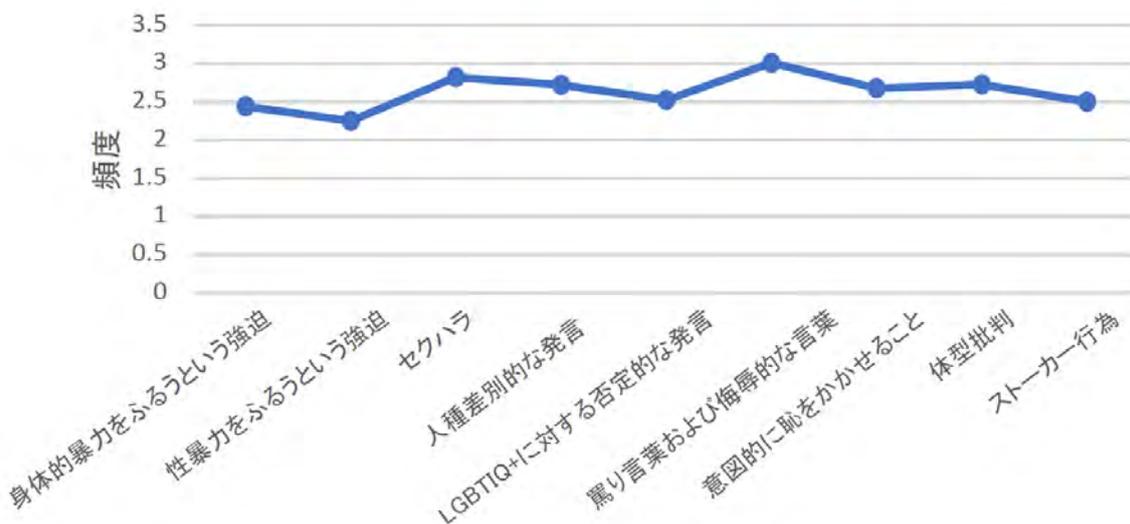
表 11 SNS 上でオンライン・ハラスメントを受ける頻度

種類	頻繁に・とても頻繁に	ときどき	めったにない	一度もない
「レイプするぞ」などの、性暴力をふるうという脅迫	16%	16%	18%	39%
セクハラ	36%	36%	11%	28%
「殴るぞ」「殺すぞ」などの、身体的暴力をふるうという脅迫	22%	22%	18%	32%
LGBTIQ+に対する否定的な発言	27%	27%	13%	35%
人種差別的な発言	34%	34%	14%	28%
体型批判	34%	34%	10%	32%
意図的に恥をかかせること	28%	28%	15%	26%
ストーカー行為	23%	23%	14%	33%
罵り言葉および侮辱的な言葉	41%	24%	11%	23%

ハラスメントの平均頻度は図5の通りだが、SNS における若年女性に起きるもっとも多いハラスメントは、「罵り言葉および侮辱的な言

葉」、続いて「セクハラ」「人種差別的な発言」「体型批判」「意図的に恥をかかせること」であることが明らかになった。

表 12 オンライン・ハラスメントが起きる頻度



女の子と若い女性はなぜオンライン・ハラスメントの被害に遭うのか？

量的調査において、若年女性はハラスメントの加害者が、「障がい」「性自認」「性的指向」「人種または民族性」を理由に、「自分自身」・「知り

合いの女の子」を標的にしていると思うかどうかを尋ねた。

- 「『自分自身』・『知り合いの女の子』が、性自認を理由にハラスメントに遭っている」21%
- 「『自分自身』・『知り合いの女の子』が、障がいを理由にハラスメントに遭っている」12%
- 「『自分自身』・『知り合いの女の子』が、人種または民族性を理由にハラスメントに遭っている」17%
- 「『自分自身』・『知り合いの女の子』が、性的指向を理由にハラスメントに遭っている」45%
- 「『自分自身』・『知り合いの女の子』が、政治的見解を理由にハラスメントに遭っている」12%
- 「『自分自身』・『知り合いの女の子』が、スタイルや容姿を理由にハラスメントに遭っている」53%
- 本アンケート調査を実施した31カ国で、「交差性の特徴(少数民族出身、LGBTIQ+、障がいなど)を少なくとも1つはある」と認識している回答者の場合、「交差性の特徴を持っていない」と認識している回答者に比べて、より頻繁にハラスメントに遭っていることがわかった。

表 13 交差性の特徴の有無で見るハラスメントの割合

	交差性の特徴を持つ若年女性でより頻繁にハラスメントを受ける割合 (a)	交差性の特徴を持っていない若年女性でより頻繁にハラスメントを受ける割合 (b)	(a) - (b) のポイントの差
アジア太平洋	37%	19%	18
日本	47%	11%	36

「自分自身が LGBTIQ+である」と認識している回答者の 33%は、「LGBTIQ+が理由でハラスメントに遭った」と回答した。「障がいがある」と自認している回答者のうち、18%が「障がいがあることに対してハラスメントに遭った」と回答した。「少数民族出身である」と自認している回答者の 33%が「少数民族出身であることを理由にハラスメントに遭った」と回答した。

この結果はしかしながら、当人が自分自身に関する情報をどれだけ公開・共有しているかによって異なり、SNS に掲載された情報だけで、性自認や性的指向、人種または民族、障がいについて常に知り得る訳ではないことに留意する必要がある。とは言え、ハラスメントの加害者は、こうした特徴が女の子にあることに気づくと、能動的にハラスメントをしていることがわかる。

4. 若年女性に対するオンライン・ハラスメントの加害者

アンケートから、回答者自身や知り合いの若年女性が、「現在付き合っている人、または以前に付き合っていた人」「友だち」「学校や職場の人」「SNS 上の知り合い」「つながりのない人」「つながりのない人たちのグループ」「匿名の SNS ユーザー」からハラスメントを受けたことがわかった。

もっとも多いのが、「『自分自身』・『知り合いの若年女性』がつながりのない人からのオンライン・ハラスメントの被害に遭った」(25%)という回答で、次いで「知り合いからのハラスメント」(23%)「匿名の SNS ユーザーからのハラスメント」(20%)となった。

表 14 若年女性に対するハラスメントを行った加害者の種類

若年女性で受けたハラスメントの加害者	%
現在付き合っている人、または以前に付き合っていた人	9%
知り合いからのハラスメント	23%
学校や職場の人	15%
SNS 上の知り合い	16%
つながりのない人	25%
つながりのない人たちのグループ	10%
匿名の SNS ユーザー	20%
その他	0%

「『自分自身』・『知り合いの若年女性』が SNS 上の知り合いからハラスメントを受けた」という回答は 60%であり、残る 40%は、「匿名の

SNS ユーザー」や「つながりのない人」「つながりのない人たちのグループ」からハラスメントを受けていた。

5. オンライン・ハラスメントがもたらす影響

オンライン・ハラスメントの被害経験は、自分自身や同世代の若年女性が「身体的に安全でないという気持ち」や「自尊心の低下」「自信の喪失」「精神的・感情的ストレス」「学校でのトラブル」「友だちや家族とのトラブル」「就職や雇用の継続におけるトラブル」といったネガティブな影響をもたらしたと回答している。

全体では、45%が「『自分自身』・『知り合いの若年女性』が SNS でハラスメントを受けること

によってネガティブな影響を経験している」と回答した。もっとも多かったオンライン・ハラスメントを受けたことによるネガティブな影響は、「自尊心の低下」または「自信の喪失」や「精神的・感情的ストレス」であり、次いで「学校や友だちまたは家族との問題」だった。

「『自分自身』・『知り合いの若年女性』がひとつ以上のネガティブな影響を経験している」と回答した者は 23%に上った。

表 15 オンライン・ハラスメントにおけるネガティブな影響をうける若年女性の割合

	%
身体的に安全でないという気持ち	8%
自尊心の低下・自信の喪失	17%
精神的・感情的ストレス	30%
学校でのトラブル	14%
友だちや家族とのトラブル	14%
就職や雇用の継続におけるトラブル	4%

5.1 女の子と若い女性のオンライン・ハラスメントへの対処方法

この節では、ハラスメントが起きたときに女の子がすべきことを理解するために、若年女性へのオンライン・ハラスメントの影響をより実践的な観点から考察する。

ハラスメントに遭ったときの対応として、彼女たちは行動的な解決策と技術的な解決策を応用していることがわかった。行動的・技術的な具体的な解決策は、以下。

- 「公開の場でハラスメントをしたユーザーに投稿する」
- 「ハラスメントを無視し、SNS の使用を継続する」
- 「自分の意見を述べる投稿をやめる」
- 「自分の表現方法を変える」
- 「SNS の使用頻度を減らす」
- 「ハラスメントがおきた SNS の使用をやめる」

技術的解決策には、「ハラスメントをしたユーザーを報告する」「アカウントを非公開にし、セキュリティ設定を強化する」ことが含まれる。

行動的解決策においては、オンライン・ハラスメントを経験した女の子の 32%は「ハラスメントを

無視し、SNS の使用を継続する」と回答した。

技術的解決策においては、25%が「ハラスメントをしたユーザーを報告」し、39%が「アカウントを非公開にし、セキュリティ設定を強化する」と回答した。

表 16 行動的解決を行う若年女性の割合

行動的解決	%
公開の場でハラスメントをしたユーザーに投稿する	5%
ハラスメントを無視し、SNS の使用を継続する	32%
自分の意見を述べる投稿をやめる	15%
自分の意見を述べる投稿方法を変える	17%
SNS の使用頻度を減らす	19%
ハラスメントがおきた SNS の使用をやめる	16%

表 17 技術的解決を行う若年女性

技術的解決	若年女性の割合
ハラスメントをしたユーザーを報告	25%
アカウントを非公開にし、セキュリティ設定を強化する	39%

6. ジェンダーに基づくストリート・ハラスメントとオンライン・ハラスメント

オンライン・ハラスメントは独立した概念ではなく、若年女性がオフラインの場である公共交通機関や公道など公共の場所で遭遇するストリート・ハラスメントの延長にある。

アンケート調査で「一般的にはどこで、より多くのハラスメントを受けると感じますか。SNS、それとも公共の場ですか」という問いかけをした。

その結果、オンライン・ハラスメントと同じだけストリート・ハラスメントに遭っていることがわかつ

た。回答者の 37%は、自分自身もしくは知り合いの若年女性が「ストリート・ハラスメントよりオンライン・ハラスメントを多く経験する」と回答し、23%は「オンライン・ハラスメントよりストリート・ハラスメントを多く経験する」、40%は「どちらも同じだけ経験する」と回答した。

「一般的に、SNS は、どの程度安全だと感じますか」という問いの結果は表 11 の通りである。

表 18 SNS は、どの程度安全だと感じますか。

	%
とても安全	12%
ある程度安全	41%
どちらとも言えない	41%
それ程安全ではない	6%
まったく安全ではない	1%

*注: 構成比は小数点以下を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100 とはならない。

7. 誰がポジティブな変化を起こすべきか？

「SNS 上での若年女性に対するオンライン・ハラスメントについて、誰がもっと声を上げ、対策を講じるべきだと思いますか」という問いに対し、「警察」「SNS を運営する会社」「政府」「オンライン・ハラスメントを目撃したほかの SNS ユーザー」「市民社会組織や活動家の人々」の選択肢から選んで回答をもらった。

もっとも多くが「運営会社が自身の媒体上のオンライン・ハラスメントを改善すべき」と回答した(41%)。次いで、「オンライン・ハラスメントを目撃したほかの SNS ユーザー」(21%)、「警察」(18%)、「政府」(15%)、「市民社会組織や活動家の人々」(5%)となった。